報告資料１－３

指定都市社会教育委員連絡協議会（2023.7.6 担当：横浜市）報告

2023.7.20 新潟市社会教育委員会議　雲尾　周

０．はじめに

対面形式で行われていた前年度までは、午前中に社会教育関連施設等視察が行われていたが、WEB 形式となった今回はなし。

なお、雲尾の参加としては、2012 年の堺市以来、新潟、浜松、岡山、相模原、熊本（1年前地震）、川崎、名古屋、【北九州・大阪は紙面開催】、福岡、そしてこの横浜ということで、紙面を除くと、第 10 回記念大会。

１．協議（14 時～17 時）

例年は協議題 10 くらいのうち、３～４程度を協議（回答市３程度）しのこりは紙面。

今回は、９の協議題すべてを扱い、回答市を１つとして進行。

協議題 1「多文化共生社会における多様な学習ニーズに応える社会教育・生涯学習の取り組みについて」（提案市：さいたま市／回答市：浜松市）⇒グループ B への示唆

協議題 2「社会教育施設の保全への取組みについて」（千葉市／ 熊本市）

協議題 3「社会教育委員会議と教育委員会の連携について」（川崎市／福岡市）

協議題 4「「公民館を核とした地域づくりの新たな展開」に資する事例について」（相模原市／川崎市）⇒グループＡへの示唆

相模原：「公民館を核とした地域づくりの新たな展開」①子ども・若者を支え活かす「機会と場づくり」 ②多世代、多様な人たちに、より開かれた「居場所づくりと学びづくり」 ③人財をより輝かせる「仕組みづくりと学びの機会づくり」

川崎市：「今後の市民館・図書館のあり方」①行きたくなる市民館・図書館～利用及び参加の更なる促進～ ②まちに飛び出す市民館・図書館～身近な地域に立脚した取組の推進～ ③地域の“チカラ”を育む市民館・図書館～地域資源や担い手づくりの推進～

千葉市：「子どもお菓子作りリーダー養成講座」 近隣の３つの小学校の４～６年生８人が、毎月１回、菓子作りの基礎を学び、 成果発表の場としてカフェをオープンすることを決めました。夏休み中に、メニ ューを考えたり、看板やチラシを作ったり、部屋の飾りつけを自主的に行い、準 備を整え、当日は公民館利用者や地域住民が集まり、用意した６０食が２時間で 無くなりました。養成講座を修了したメンバーと館の交流は現在も続いており、講座の受付や講師の助手を務めるなど、公民館の運営に協力しています。

仙台市：「若者社会参画型学習推進事業」若者の地域づくりへの参加や、様々な人々との学び合いを通して、身近な地 域をよりよくすることへの意識を高め、自発的・主体的に行動しようとする人づくりを推進することを目的に、平成 22 年度より取り組んできた事業である。令和 4 年度は 5 事業実施。 ○ 大人対象の事業：「住民参画・問題解決型学習推進事業」：

「子ども参画型社会創造支援事業」小学生の児童から中学校・高等学校の生徒まで、子どもたちがそれぞれに地域社会の構成員としての意識を育みながら成長していくことを目指し、子どもたち自身が主体的に参画し、子どもならではの役割と可能性を自由に発揮できる事業である。平成23年度から実施しており、各区中央市民センターを中心に、地区市民センターとも共催しながら事業展開を図っている。令和4年度は13事業実施
さいたま市：三世代交流ふれあいフェスタ in 大砂土公民館２０２２
静岡市：高校生に教わる小学生書初め教室
浜松市：若者ボランティア「コミュニティ・アシスタント」 かねてから協働センターには若者が来ないという課題があった。そこで、 中学生ボランティアとして活動した生徒に対して、卒業時に高校進学以降で も活動できる登録制のボランティア「コミュニティ・アシスタント」を令和 2年度から開始した。当初5名で始まった活動も現在では 35 名に拡大した。 昨年度までは、協働センターのイベント補助がメインであったが、令和4年 度は自主企画として「アオハル音楽祭」、「富ックオアトリート！2022」を開 催した。この活動を通して、「コミュニティ・アシスタント」の若者たちは、 やりがいや達成感を感じ、シビックプライドの機運を高めている。
京都市：生涯学習総合センターの空室を自習室として開放し、幅広い世代の方々へ学びの場を提供している。当センターで開講している実技講座の受講者や、会場を利用する団体の活動内容の紹介や作品の展示なども行っている。 また、本市には公民館が2館しかないため、学校を生涯学習の場としても活用しており、学校の余裕教室等を生涯学習に利用できる施設に改修・ 整備し、多世代が学びあえる生涯学習の場として開放する「学校ふれあいサロン事業」や「学校コミュニティプラザ事業」を行っている。

協議題 5「コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の成果について」（静岡市／岡山市）
協議題6「若年層（小学生～大学生）に向けた生涯学習振興策について」（名古屋市／堺市）
⇒グループＡへの示唆
協議題7「市民の学習意欲の向上を図り、学習履歴や到達度を振り返ることができる制度や取組について」（京都市／名古屋市）
協議題8「コロナ禍における子供たちの社会教育の機会の減少について」（神戸市／横浜市）
⇒グループＡへの示唆
協議題9「子育て世代に対する学習機会の提供について・保護者に対する積極的な家庭教育支援の好事例について」（浜松市・岡山市／さいたま市・千葉市）

２．その他
　表彰者の推薦決定、次年度開催担当：京都市（開催形式は検討中）

以　上

報告資料１－４

令和５年度指定都市社会教育委員連絡協議会　参加レポート

氏名　　佐藤　裕紀

1　期日：令和５年７月６日（木）14時～17時

2　開催方法：WEB開催（「Zoom」を使用）

3　参加者：各指定都市社会教育委員、各指定都市社会教育主管課長等
（札幌、仙台、さいたま、千葉、川崎、横浜、相模原、新潟、静岡、浜松、名古屋、京都、大阪、堺、神戸、岡山、広島、北九州、福岡、熊本）

4　協議題一覧

提案市	協議題	回答市
さいたま市	多文化共生社会における多様な学習ニーズに応える社会教育・生涯学習の取り組みについて	浜松市
千葉市	社会教育施設の保全への取組みについて	熊本市
川崎市	川崎市 社会教育委員会議と教育委員会の連携について	福岡市
相模原市	「公民館を核とした地域づくりの新たな展開」に資する事例について	川崎市
静岡市	コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動の成果について	岡山市
名古屋市	若年層（小学生～大学生）に向けた生涯学習振興策について	堺市
京都市	市民の学習意欲の向上を図り、学習履歴や到達度を振り返ることができる制度や取組について	名古屋市
神戸市	コロナ禍における子供たちの社会教育の機会の減少について	横浜市
浜松市 岡山市	子育て世代に対する学習機会の提供について 保護者に対する積極的な家庭教育支援の好事例について	さいたま市、千葉市

5．参考になった内容、取り組み

●さいたま市：多文化共生社会における取組み

・外国籍住民の学習ニーズの把握方法、ニーズに応える学習支援・活動支援、公民館等の社会教育施設において、外国籍住民が利用・滞在しやすい取り組み例、外国籍住民と他の地域住民が相互に理解を深めたり、共に活動する支援の例を教えて欲しい

○浜松市北部協働センター「BATE-PAPO（バテ・パポ）」による日本語教室

・成人向けの日本語教室。外国籍住民の口コミで広がり30年目の活動。

・協働センターをベビーシャワーなどの習慣など、交流の場として外国籍住民が活用。

・浜松市高台協働センター×ブラジルにルーツの農家×大学でキャッサバ芋の栽培→調理。

・浜松市内の各大学と連携し、大学生が講師となり講座を実施。大学の授業の一環としてカリキュラムにも一部取り入れられている。

●千葉市：社会教育施設の保全への取組みについて

・多くの社会教育施設が建築から40年以上たち老朽化→保全計画の策定の有無、社会教育

委員会議で議題にあがるか？

○熊本市：議題にあがっていない。公民館（個別の計画はないが、機能複合化を含めた検討）、博物館（作成）、図書館（作成）

●名古屋市：若年層（小学生～大学生）を対象にした、生涯学習施設の利用率向上策や講座の企画等、生涯学習の振興に向けた取り組み事例を教えて欲しい

○堺市立図書館：①本や読書の楽しさを伝える子ども司書養成講座を各図書館で実施。
②図書館実習生や大阪商業大学堺高校の生徒の協力で、ティーンズコーナーの模様替えを実施。同高生徒の選定資料を選書に活用。
③大阪府立登美丘高校生徒作成のＰＯＰを合わせたブックフェア
④中学１年生全員を対象とした図書館見学及び図書館資料を活用した夏休みの宿題支援、教員全員を対象とした研修の実施。

・青少年センター、青少年の家に無料で利用できる学習室（年間 18,000 人程度利用）
・堺市博物館：わくわくどきどき体験学習会、日本と世界が出会うまち・堺プロジェクト

●京都市：市民の学習履歴や到達度を振り返ることができる仕組み
「京(みやこ)まなびパスポート」の利用が近年低調。学習・活動した内容やその感想等を１頁ずつ記録し、100 頁（１冊分）達成し申請すると認定証が交付される。
https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000179507.htm

○名古屋市：生涯学習センターで開催する「なごや学マイスター講座」の受講者等に、講座修了後の学習や活動に対して、ポイントを付与し認定する制度。(https://youtu.be/kKUvDcbMvz8)、マイスター交流会の実施。

●神戸市：コロナ禍における子供たちの社会教育の機会の減少について

○横浜市：H16 年度～「子どもアドベンチャー」をコロナ禍で中止し、事業趣旨の見直しをして、「キャリア教育、職業体験」「親子のふれあい」→「主体的・対話的で深い学びの実現」「社会参加のきっかけづくり」に主目的を変更。

・各プログラム中には、企業・団体等の「大人」から「子どものときの学びがどのように今の職業につながっているか」等の「講和」を入れ、子どもたちに生涯学び続けることの重要さに気付いてもらう「仕掛け」。
・公募による学生サポーターをプログラムの運営補助役として配置し、子どもや企業・団体等と関わることで、若者の社会参加の機会を提供。
http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakusyu/adv/

６．雑感

・社会的包摂に関連した取り組みや、各指定都市でどういった点に課題を感じ、試行錯誤しているのかなど参考になった。共通した課題も複数見られた。
・社会教育施設への保全、教育委員会との連携（提言の活用方法など）、図書館や博物館の在り方などについても、本市の委員会議の議題としてあがっても良いのではないかと思った。